

鍼灸師 成田 航(ナリタ ヲタル) プロフィール

成田航(ナリタ ヲタル)と申します。

これから私の自己紹介をしたいと思います。本当は書きたくないこともあります、ありのままにお伝えします。治療をする上で最も大切な信頼関係を築いていきたいからです。



1992年10月6日 札幌生まれ札幌育ちです。
私が今日までに経験したこと、感じたことを綴っていききたいと思います。

～水泳と私～

私は小学生の頃から色々なスポーツをやってきており、4年生からは水泳選手として頑張ってきました。専門種目は平泳ぎです。練習はどちらかと言うと嫌いで、休むことが多かったですが、負けず嫌いな私は出るからには優勝と意気込んで練習をして大会に臨んでいました。ケガが多かった私なので、小さい頃から膝に水を溜めたり、



腰椎分離症を起こしながら騙し騙し練習・大会に参加してきました。

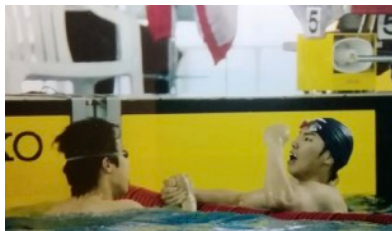
しかし、その怪我をなかなか周りに分かって貰えず、ケガしたやつが悪いという風潮にとて苦しめられました。治療も小学生ながら自分で考え行って来ました。

この時、私は自分のようなけがや故障で苦しんでいる人たちにサポート出来るコーチやトレーナーになりたいと思うようになりました。

周りにはケガをして辞めていく友達・先輩が多すぎて、気づいたら平泳ぎをやってきた同年代の友達ほとんどいなくなっていました。みんなで全国大会に出て来たのにとて悔しく、寂しかったことを覚えています。

将来はケガで水泳をやめてしまう人を出さないようにしたいと思うようになりました。

～インターハイにかけた青春の3年間～



高校1年のときに接戦の末、1回目のインターハイに出場することが出来ました。その時の選手のコンディションがまずで初めて私ははりと出会いました。

最初、ふくらはぎにはりを刺すと聞いて、

血が飛び散るのではないかと考えていたことを今でも覚えています。笑 実際には、はりで足が軽くなり疲労が抜け、鍼灸ってすごいなと思いました。

2年生では一週間前に体調を崩し、毎日点滴を行って大会に臨みましたが、ギリギリインターハイには行くことは出来ず、

バーンアウトしてしまい引退しようと思ったことがありました。

悔しくて立ち直れない日々が続きました。しかしながら、両親を始め、色々な方々に支えられ、もう一年間頑張ろうという気持ちが芽生えました。

翌年の道予選では、1日目の200m平泳ぎは0.2秒差で負けてしまいましたが、2日目の100m平泳ぎでは0.1秒差でインターハイに出場することが出来ました。

応援してくれた両親やコーチ、友達みんな喜んでくれ、とても嬉しかったです。沖縄でのインターハイということで、絶対に出場したいという気持ちが身を結びました！

しかし、インターハイに出ること満足してしまい、良い結果を残すことが出来ませんでした。



～自分の経験を伝えたい～

試合で優勝するということはもちろんながら、そのために何をすればいいのか、また何に気をつければいいのかを自分なりに勉強してきました。

私がインターハイに出場するまでの苦悩や努力を

少しでも伝えたいと思い、体育教員の勉強をしコーチング出来ればと考えました。

しかし、大学受験に失敗。どうしたらいいかわからなかった自分に出来た道は

たまたまホームページで見つけた、スポーツと鍼灸が学べる北海道ハイテク/ロジック専門学校でした。

～専門学校での3年間～

3月30日で学校を受験し、その一週間後に入学式というスケジュールという事もあり

周りにあまり馴染めない日々が続きました。学校を辞めたいと憂鬱な日々を過ごしましたが、

自分なりにみんなとの接し方を考え時間がかりながらも、馴染める事が出来ました。

みんなと共有した時間や団結して受けたテストや試験は私の思い出です。

そんなこんなでトレーナーの資格と鍼灸の資格を取ることが出来ました。



～トレーナーと私～

学校でスポーツを学ぶにつれ、自分のやりたいことがとても明確になりました。

大学には行けませんでした。とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

運あって(株)ホリオメディカルジャパンで働くことになりました。

これからは水泳に限らず、ケガで悩む方々や、スポーツを頑張りたい方々のサポートが出来るように頑張ります。

まだまだ未熟な私ですが、これからもっともっと勉強して行きますのでよろしくお願いします！